# 国際平和研究所20年のあゆみ

：関連する国際情勢　黒字：国際シンポジウム　青字：講演会

1986　国際学部設立とともに、同学部の付属研究所として発足

1988　全学研究所となる

**PRIMEの主催した国際シンポジウムと主な講演会**

1989　アジア太平洋地域の平和と安全（バグウォッシュ会議共催）

1989　ベルリンの壁崩壊　冷戦終結

1989　イラクのクウェート侵攻

1990　地球民主主義の条件（神奈川県共催）

1991　湾岸戦争勃発　ユーゴスラビア紛争開始　ソ連邦崩壊

1991　湾岸戦争と日本（神奈川県共催）

1992　地球時代と日本（神奈川県共催）

1993　国連改革と日本

1994　国際社会の将来と国連改革

1995　東アジアにおける情勢の国際移動と日本　女性移住者の人権

1996　台湾原住民族の今

1997　ヒューマン・セキュリティと市民社会

1998　TICAD（アフリカ開発会議）Ⅱ開催

1998　グローバル化時代のアフリカ

99　アジアの非核化と日本の役割

2000　西アフリカの貧困と対立

01　平和と自治の地域づくりを考える

01　9.11米同時多発テロ事件　アフガニスタン攻撃

02　沖縄から問う9月11日後の人間の安全保障

03　イラク戦争

03　市民社会における情報公開制度の役割と可能性（フーチラス研究所共催）

04　私たちはどんな世界に生きたいのか？――イラク戦争とグローバル市民社会の役割

05　東アジアに公共空間を――人々の『アジア共同体』を考える

06　世界の中の憲法9条

06　イニャシオ・ラモネ講演会「もうひとつのグローバル化運動」

07　世界の中の憲法9条～沖縄・子ども・戦争～

07　アフリカの紛争と平和

08　スーザン・ジョージ講演会「グローバル化する金融危機と環境破壊」

08　洞爺湖G8サミット　TICAD Ⅳ　9条世界会議開催

## 1990　地球民主主義の条件
（神奈川県共催）

**講演者**
ヴィル・スミルノフ、コンスタンティ・ゲーベルト、ベルナベ・ブスカイノ、マリー・アンジェリーク・サヴァネ、朴 權相、モハメド・シド・アハメド、ヴァンダナ・シヴァ、リチャード・フォーク

本シンポジウムは、1989年の東欧の劇的な変化の中で、民主主義の根強さと民主化のプロセスで生じる問題点を分析することによって、今地球社会にどのような「下からの変革」が起こっているかを討論することが中心となりました。国際研究プロジェクト「世界秩序構想」および神奈川県との共催でアジアはもとよりソ連・東欧・欧米・西アジアからも参加があり、来るべき地球民主主義の条件が、市民社会による新たな国際協力も含めて広く討論されました。その成果の一部は下記の文献を参照。

『地球民主主義の条件―下からの民主化をめざして―』
坂本義和／大串和雄編著
岡文館／1,800円

## 1998　グローバル化時代のアフリカ

**講演者**
エル・ハジ・ムボッチ、ンジャイ・ムボッチ・サール、吉田昌夫、アルマンド・マレイ・Jr、ウィリー・ジャクソン、マタタ・ムケンゲシャイ、重光哲明、イバ・ソコナ

1990年代、累積債務返済に苦しむアフリカ各国の歴史的・政治・経済・社会的状況を無視して規制緩和、貿易の自由化という画一的な市場原理をその政府に課した結果、アフリカ社会における貧困は拡大し、地域紛争さえ生じる地域も現れました。こうした中で、人々が安心してほどほどまで生活できるようにする人間の安全保障アプローチによって、アフリカの現状を、特に民主化と農村開発に焦点を合わせ討論しました。アフリカからは、大学研究者や、農民運動の代表が参加。PRIME10号を参照。

PRIME No.10
特集：グローバル化時代のアフリカと人間の安全保障
（1999年3月31日発行）

## 2002　沖縄から問う 9月11日後の人間の安全保障

**講演者**
佐々木寛、李 鐘元、安里栄子、浦島悦子、屋嘉比収、高作正博、阿部浩己、高里鈴代、池上雅子、武者小路公秀、W・ハントレー、H・クリステンセン

21世紀初頭を象徴する9・11事件後、世界は一挙に混乱と不安定な状態に陥りました。このシンポジウムはそのような不吉な予兆につつまれるなか、企画され実施されました。内外、特に沖縄、米国、スウェーデンから研究者、実践家をお招きし「人間の安全保障」という観点から米国の「安全保障」政策を検証し、日本においてその影響を直接的に受けている沖縄の実情を把握し、それを国際法、日本国憲法という法から検討し、新たな軍事化に対する解決の展望を多角的に模索しました。

## 2006　イニャシオ・ラモネ講演会「もうひとつのグローバル化運動」

グローバル化現象が世界経済にどのような変化を生じさせ、その結果どのような国際格差（南北問題）や国内格差を生んでいるかを、より公正な社会展望によってフランスの独立月刊国際誌「ルモンド・ディプロマティーク」の編集長のラモネ氏が分析されました。同氏は大企業と大競争中心のグローバル化に対し、人々が互いに協力し合って民主的な世界を目指す「もうひとつのグローバル化」を目指す運動の必要性を強調しました。なお同誌の「友の会」の東京支部はPRIME内に置かれ、研究会が開催されています。

## 2008　スーザン・ジョージ講演会「グローバル化する金融危機と環境破壊」

オルタナティブな世界を目指すジョージ氏は、世界を取り巻く3つの危機として、社会的危機（不平等・貧困）、金融危機（サブプライムローン問題等）、環境問題（温暖化等）をとりあげ、これらは互いに深く関連していると述べました。しかし、これらの危機に直面する現代は、問題解決に向けてのチャンスでもあるとし、今こそ経済システムの転換が必要であると指摘。開幕を控えた北海道でのG8サミットにも触れ、組織的な市民活動の必要性を訴えました。会場には300人以上の聴衆が集まり、熱心に質疑応答が交わされました。

**スーザン・ジョージ**
1934年米国生まれ。94年に仏国籍取得。著者に『なぜ世界の半分が飢えるのか』（朝日新聞社）など多数。